- Proc. Exp. Biol. Med., 52, 338., 1943.
- 6) 鶴岡: 醫學と生物學, 10(6), 292, 1947
- 7) 桑原: 醫學と生物學, 11(2), 94, 1947
- 8) 桑原: 日新醫學, 35, 519, 1948
- 9) 桑原: 日本細菌學雜誌, 4(1), 23, 1949
- 10) O'Meara: Lancet, ii, 747, 1947.
- 11) Sevag, M.G., Green, M.N.: J.Bact. 47, 450, 1944.
- 12) Sevag, M.G., Green, M.N.: J.Bact. 48, 496, 1944.
- 13) Sevag, M.G., Green, M.N.: J.Bact. 48, 615, 1944.
- 14) Wyss, O., Standskov, F., Schmelkes, F.C.: Science, 96, 236., 1942.
- 15) Van Niel, C.B.: Ann. Rev. Biochem., 12, 551., 1943.
- 16) Dorfman, A.: Proc. Exp. Biol. Med., 45, 750, 1940.
- 17) Sevag, M.G., Schelburne, M., Mudd, C.: J. Bact., 49, 65, 1945.
- 18) 八田, 宮本, 越沼: 日本細菌學雜誌, 5(5), 283, 1950
- 19) 山田: 日新醫學, 38(1), 35, 1951
- 20) 藤野外: 日本細菌學雜誌, 5(5), 299, 1950
- 21) Straus, H.: J. Immunol., 43, 313., 1941.
- 22) Kirby, S.: J. Exp. Med., 77, 29., 1943.
- 23) 桑原外: 醫學と生物學, 17, 37, 1950
- 24) 藤田: 検壓法の生物學的應用, 岩波書店
- 25) Steers, E., Sevag, M.G.: Arch. Biochem., 24, 129., 1949.
- 26) Sevag, M.G., Steers, E.: Arch. Biochem. 24, 14, 4., 1949.
- 27) Sevag, M.G., Steers, E., Forbes, M.: Arch. Biochem. 25, 185, 1950.
- 28) Gale, E.F., Rodwell, A.W.: J.Bact. 55, 161, 1948.
- 29) 水野, 小坂: 日本細菌學雜誌, 5(2), 53, 1950
- 30) 大林: 日本醫科大學雜誌, 17(12), 8, 1950

子宮癌腔内容の形態學的研究

Morphological Study on the Vaginal contents of Uterine Carcinoma.

日本醫科大學第一醫院産婦人科教室 (主任石川正臣教授)

助手 牧 野 徳 榮
Makino Tokuei

内 容 目 次

第1章 緒 論

第2章 研究材料並に研究方法

第1節 内容物採取法

第1項 腔内容の採取法

第2項 頸管並に子宮腔内容の採取法

第2節 塗抹標本の固定法及び染色法

第1項 ヘマトキシリン, エオジン染色

第2項 DF32 染色

第3項 EA25, EA36, EA65 染色

第4項 Sudan III 脂肪染色

第5項 炭酸銀染色 (Hortega 染色)

第6項 EA36 染色牧野變法

第7項 その他の染色

第3章 豫備實驗

第1節 腔塗抹標本に現われる正常細胞

第1項 腔精膜上皮細胞

第2項 腔上皮以外の細胞

第2節 腔塗抹標本に現われる異常細胞

第1項 塗抹標本に現われる悪性腫瘍細胞の一般 的特徴

第2項 塗抹標本に依る判定法

第4章 實驗例

第5章 總括並に考案

第1節 塗抹標本作製法

第1項 腔内容採取法

第2項 塗抹法

第3項 固定迄の時間及び固定時間

第4項 固定液及び染色液

第5項 染色目的

第6項 子宮癌診斷法としての塗抹標本各種染色 法の特徴

第2節 腔塗抹標本に依る子宮癌診斷法

第1項 診斷上意義ある所見

第2項 鑑別を要する非癌腫性細胞

第3項 診斷成績

第3節 子宮癌腔塗抹標本所見

第1項 頸 癌

第2項 體 癌

第3項 斷 端 癌

第4節 子宮癌剔除手術後の腔内容

第5節 再發癌の腔内容

第6節 子宮癌以外の性器悪性腫瘍

- 第1項 膣 癌
- 第2項 卵 管 癌
- 第3項 卵 巢 癌
- 第4項 卵巣肉腫
- 第5項 外 陰 癌
- 第7節 子宮癌放射線療法時の腔内容

第1章 緒 論

腔内容の形態學的研究に關しては遠く1917年 Stockard 及び Papanicolaou¹⁾ が始めてモルモットを使用し腔内容の形態に依る性周期の變化を報告して以來、1922年 Long, Evans, Allen, Stelle. はマウス、Murphy. は牝牛、1923年 Hartman は袋鼠、Corner は東印度産の短尾猿、1924年 McKenzie, Zupp は豚、1926年 Frei, Metzger は牝牛、Wilson は豚について研究し、²⁾ 本邦に於ても諸家に依りマウス、ラッテ、モルモット等を使用して追試され、腔内容の形態に依る周期性變化は認められるに至つた。

1925年 George N. Papanicolaou は James, Ewing と共に 婦人腔内容の形態的變化に依り、子宮癌の診斷が可能な事に着目するに到つた³⁾。之れより以後 1926年 King、1928年 Ramirez 等多くの學者は次第に動物實驗より婦人の腔内容の研究へと進んだ²⁾。

1941年 Papanicolaou 及び Traut. が始めて子宮筋腫と云う臨牀診斷患者の腔内容中に癌細胞を認め⁴⁾、Vaginal Smear Method に依る子宮癌診斷法が發表されて以來、近時は子宮癌のみならず、女性性器悪性腫瘍の診斷に應用されるに到つたが、本邦に於ては未だ本法の纏つた研究報告を見ない。

余は Vaginal Smear Method の價值を検討すると共に、本法が放射線療法時の效果判定、更に子宮癌の豫後の推定に應用せられるか否かを決定する爲に本研究に着手した。

第2章 研究材料並に研究方法

研究材料としては昭和 23 年 4 月より昭和 25 年 8 月に至る期間、主として日本醫科大學附屬第一醫院産婦人科外來並に入院患者の腔、頸管

- 第1項 全細胞に明かな照射反應を認めたもの
- 第2項 正常腔上皮細胞か腫瘍細胞か何れかに僅かの照射反應を認めたもの
- 第3項 照射後の細胞消長
- 第4項 塗抹標本に依る頸癌の豫後推定
- 第6章 結 論

時に子宮腔よりその内容を採用し、載物硝子、(クローム硫酸に依り豫め處置す)に塗抹、固定し種々の染色を實施して鏡檢した。又手術時摘出した腫瘍よりの塗抹標本、組織標本或は試験切除に依つて得た組織標本と比較を試み、臨牀的並に肉眼的觀察を併せ行つた。

第1節 内容物採取法

第1項 腔内容の採取法

内診後又は内診前、及び洗滌前に豫め消毒乾燥したフスコー氏腔鏡を以て子宮腔部を露出し後腔圓蓋にある内容物を乾燥した小綿球で軽く拭き取り、時に子宮腔部表面を強く拭き取り、又ビペットに依り採取し之を載物硝子に軽く壓し付けるか或は轉がす如く薄く塗抹した。

その他内容の少い時は Joseph Skapier⁵⁾ の云う如く生理的食鹽水と 10% アルコール等量液にて洗滌し、洗滌液を遠心沈澱し、卵白を塗布した載物硝子に塗抹した。

第2項 頸管並に子宮腔内容の採取法

頸管癌、子宮體癌の疑の有る場合には余の考案した先端に橢圓形の4個の孔のある吸引器を使用して内容物を採取し、之を載物硝子に薄く塗抹した。

第2節 塗抹標本の固定法及び染色法

第1項 ヘマトキシリン、エオジン染色

固定液として 95% メタノール又は 95% アルコール、エーテル等量液を使用し 15 分間固定を行つた。染色法は從來實施して居る方法⁶⁾を行つた。

第2項 DF32 染色⁷⁾

(1) 95% アルコール、エーテル等量液にて 15 分間固定、之を 70%、50% アルコールを通して水迄おろす。

(2) Ehrlich 氏ヘマトキシリン(或は他のヘマトキシリン)で約 5 分間染色する。

(3) 蒸留水で洗い、流水中に 5 分間置く。

- (4) 再び蒸溜水を通す
 (5) DF32 液中に約 2 分間染色する。
 (6) 水洗, 脱水, バルサムで封する。

DF32液	Anilin 青水溶液 …0.5%	12cc
	Orange G 水溶液…同上	25cc
	S.Fuchsin 水溶液…同上	21cc
	Eosin Yellow 水溶液…同上	42cc
	燐タングステン酸…0.1125gr	
	燐モリブデン酸…0.225gr	

第 3 項 EA25⁸⁾EA36⁸⁾EA65 染色⁹⁾

- (1) 95% アルコール, エーテル等量液にて 15 分間固定, 次に 80%, 70%, 50% アルコール, 次で蒸溜水を通す (塗抹標本を水中より引き上げ, 塗抹面に水が一様に擴がる迄水洗する)
 (2) Harris ヘマトキシリンで 6 分間染色する
 (3) 5~10 分間水洗する。
 (4) 0.25% 鹽酸アルコールで 6 秒間辨色する。
 (5) 5~10 分間水洗する。

- (6) 50%, 70%, 80%, 95% アルコールを通す
 (7) OG6 で 1~1.1/2 分間染色する。
 (8) 95% アルコールを 2 回替えて洗う
 (9) EA25 EA36 EA65 の何れかで 1.1/2~2 分間染色する。
 (10) 95% アルコールを 3 回替えて洗う。
 (11) 純アルコール, キシロールを通しカナダバルサムで封する。

Harris ヘマトキシリン¹⁰⁾

- (1) 1gr のヘマトキシリンを 10cc の純アルコールに溶かす
 (2) 20gr の加里明礬を 200cc の蒸溜水に溶かす。
 (3) 兩者を混合し 24 時間放置する。
 (4) 之に 0.5gr の赤或は黃の酸化水銀を加え小泡が一面に生ずる迄加熱する。
 (5) 速に冷却し, 24 時間後に濾過し, 暗赤紫色を呈する迄放置して後に使用する。

EA25, EA36, EA65 液

		EA25.	EA36.	EA65.
Light Green SF Yellowish	0.5% 95% アルコール溶液	44cc	45cc	
同 上	0.25% 95% アルコール溶液			45cc
Bismark Brown	0.5% 95% アルコール溶液	12cc	10cc	10cc
Eosin Yellowish	0.5% 95% アルコール溶液	44cc	45cc	45cc
Acid Phosphotungstic		0.17gr	0.2gr	0.2gr
Lithium Carbonate 飽和水溶液		1 滴	1 滴	1 滴

OG6 { Orange G 0.5% 95% アルコール溶液 100cc
 Acid Phosphotungstic 0.015gr

第 4 項 Sudan III 脂肪染色 (川村矢崎氏法)¹¹⁾

- (1) ホルマリン瓦斯固定, 約 10 分間で直ちに水洗する。
 (2) Böhmer 氏ヘマトキシリンにて 1~2 分間染色する。
 (3) 3~5 分間水洗する。
 (4) Sudan III 液中に移し 30°C 10~15 時間染色する。
 (5) 軽く水洗する。
 (6) Apäthy 氏ゴムシロップ, 又はグリセリンにて封する。

第 5 項 炭酸銀染色 (Hortega 染色)¹¹⁾

- (1) 10% フォルマリン液に 15 分間以上固定し次に蒸溜水を 2 回取替えて通す
 (2) 弱 Hortega 液にて 2~3 分間染色する。(液は使用する度に作り, 褐色瓶を使用する)
 (3) 餘分の液を吸取紙でとり, 1% フォルマリン液に 1 分間入れる。
 (4) 蒸溜水で洗い, 染色の度合を鏡檢する。
 (5) 濃く染めるには再び弱 Hortega 液中に 2~3 秒間入れ, 1% フォルマリン液に 30 秒間浸し, 速かに蒸溜水で洗う。
 (6) 乾燥, キシロールを通し, バルサムで封する。

Hortega 液

10%硝酸銀液 25cc に 5%炭酸ソーダ液75cc を加え、白色沈澱を生じたものに、此の沈澱が消える迄水酸化アンモニウムを加えたものである、之を蒸溜水 275cc で稀釋したものが、弱 Hortega 液である。

第6項 Papanicolaou氏EA36染色牧野變法

(1) 95%アルコール、エーテル等量液に 15 分間固定する。

(2) 5分間水洗する

(3) 鐵ヘマトキシリン水溶液で約1分間染色する(明礬ヘマトキシリンにても可)

(4) 辨色には 30% 醋酸を使用する、明礬ヘマトキシリンの場合には、0.25%鹽酸アルコールを使用する。

(5) 3～5分間水洗する

(6) Orange G 0.5% 水溶液で1分間染色する

(7) 下記液で1分間染色する

Light Green SF Yellowish 0.5%水溶液 45cc

Bismark Brown 0.5%水溶液 10cc

Eosin Yellowish 0.5%水溶液 45cc

Acid Phosphotungstic 0.2gr

Lithium Carbonate 飽和水溶液 1 滴

(8) 脱水、キシロールを通し、バルサムにて封する

第7項 その他の染色

(1) Feulgen 氏核染色⁷⁾

(2) Champy-Kull 氏酸性フクシントロイジン
オーランチャ 3 重染色⁷⁾

(3) 石黒氏に依る Golgi 氏内網染色⁷⁾

第3章 豫 備 實 験

子宮剔除手術を實施した子宮癌患者、及び 566 名の子宮癌以外の患者、即ち子宮發育不全 110 頸管炎 82 子宮内膜炎 68 子宮萎縮 58 附屬器炎 52 子宮腔部糜爛 46 子宮筋腫 40 腔炎 32 卵巣性出血 28 妊娠、分娩、産褥 24 子宮内膜症 10 子宮内膜増殖 8、健康婦人 8 に就て塗抹標本中に出現する細胞を種々の染色を實施して觀察した

第1節 腔塗抹標本に現われる正常細胞

腔塗抹標本に現われる細胞は主として腔、子

宮腔部の粘膜上皮細胞、頸管、子宮腔及び卵管粘膜上皮細胞、子宮腺上皮細胞、その他白血球赤血球、細菌、微生物、細胞の崩壊物等である。此等の出現細胞の種類及びその多寡は月經周期卵巣の活動狀態に依在するものである。

第1項 腔粘膜上皮細胞

腔粘膜上皮細胞を Murray¹²⁾ は胚芽層、棘細胞層、核濃縮細胞層、顆粒細胞層、角化層に、Papanicolaou⁸⁾ は基底細胞層、中間細胞層、鱗狀細胞層に、Dierks¹³⁾ は基底細胞層、上皮内角化細胞層、機能細胞層に、Stemshorn¹⁴⁾ は膨化細胞層、壓縮細胞層、基底細胞層等に種々分類して居るが、余は組織細胞學的に次の如く分類した。

(1) 基底細胞

Papanicolaou⁸⁾ の内基底型細胞 (I.B.T.) に相當する細胞で、氏に依れば鹽基好性で比較的大きい圓形、卵圓形の核を有し原形質は少ないと云つて居るが、余は塗抹標本に於ては本細胞を明かに認めた事がない。

(2) 深層細胞

Papanicolaou⁸⁾ の外基底型細胞 (O.B.T.) 及び中間型細胞 (I.M.T.) の下部に相當するもので、大いさは小さいものから稍々大なるものがあつて、卵圓形、圓形を呈し、時に多角形で長い突起を有している事がある。

核は比較的大きく、顆粒狀を呈している、鹽基好性で原形質中に空胞を有している場合が屢々である。又核が大い空胞に依り、壓された如く偏在している場合もある。

Hortega 染色に於ては濃黄褐色に染まる。Sudan III 染色に於て脂肪を認める場合は稀である。

本細胞は小兒、老年婦人、高度子宮發育不全、原發無月經、産褥等に多く見られ、卵巣機能の影響に殊に敏感である。

(3) 表層下部細胞

Papanicolaou⁸⁾ の中間型細胞の比較的上部のものに相當する。即ち深層細胞及び次に述べる表層上部細胞との移行型であつて、深層細胞より 2～3 倍の大きい橢圓形、紡錘形、時に多角

形を呈し、鹽基好性或は時に酸好性を呈し、染色性も弱く、空胞化が一層顯著である。核は原形質に比して比較的大きいものから萎縮したもの等がある。

Hortega 染色では淡黄色に染まり Sudan Ⅲ 染色で脂肪粒を屢々認める。

Papanicolaou⁸⁾ の所謂 Naviçular Cell は此の細胞群に含まれる。

(4) 表層上部細胞

Papanicolaou⁸⁾ の鱗狀細胞型の下部に相當し塗抹標本では非常に多數見られるものである。

表層下部細胞より更に大きく、豊富な原形質と、比較的小さい圓形、又は橢圓形の核を有して、多角形、Wafer 形を呈し、扁平で皺襞を作つたり、折れ曲つたり、邊緣が捻れたりして不規則な輪廓を示す、又酸好性及び鹽基好性のものがあるが、ヘマトキシリンエオジン染色では淡紫青色より淡紅色迄に染まり、鹽基好性のものの方が酸好性のものに比し稍々大きい核を持つている。EA36 染色では淡綠色、淡青色に染まるものが多い。

Hortega 染色に於ては、淡黄色半透明に染まり、核は褐色より稍々濃青色に染まる、Sudan Ⅲ 染色では小滴狀の脂肪を認める。

(5) 核濃縮細胞

Papanicolaou⁸⁾ の鱗狀細胞型に含まれる、表層上部細胞と大さ、形態は同じであるが、更に薄い感が強い。多くは酸好性であるが鹽基性のものもある、核は小さく濃染する。EA36、65 染色では Orange G. の色を取るものが多い。Hortega 染色では淡黄色、核は黑色不規則な形を呈する。Sudan Ⅲ 染色に於て脂肪粒を著明に認める。

(6) 顆粒細胞

Papanicolaou⁸⁾ の鱗狀細胞型に含まれる、表層上部細胞、核濃縮細胞と大さ形態は同様で、酸好性のものと鹽基好性のものがある。原形質には大小種々の顆粒があり、或る顆粒は大きく酸好性で淡染し、或るものは小さく鹽基性で比較的大きい顆粒は核の附近に多く、時として核に附着している。核は多くは濃縮し、或は一

部崩壊して其處から出たとも見えるような濃染顆粒が散在しているものがある。Hortega 染色では顆粒は濃茶褐色、濃青色、黑色に染まる、Sudan Ⅲ 染色に於ては脂肪粒を著明に認める。

(7) 角化前細胞

Papanicolaou⁸⁾ の鱗狀型に入るもので、形は前三者と同様で、酸好性細胞であり、EA36、65 染色では淡綠色、或は淡オレンジ色を呈する。核の染色性は弱い。

Hortega 染色では淡黄色を示し、Sudan Ⅲ 染色に依り脂肪を認める。

(8) 角化細胞

Papanicolaou⁸⁾ の鱗狀型の一部であり、核は消失し。細胞質は酸好性を示し一様に良く染まる。Hortega 染色では淡黄色に染まり Sudan Ⅲ 染色で脂肪を認める。

第2項 脛上皮以外の細胞

最も屢々見られるものは、頸管上皮細胞と子宮内膜細胞である。

(1) 頸管上皮細胞

比較的小さい細胞で、屢々集團をなして現われ、殊に頸管内容塗抹標本では著明である。通常圓形、橢圓形であるが、時として長方形で一端は屢々纖毛狀となつて反對側の尖つた形のものもある。かゝる形のは子宮内膜細胞との區別が明かである。

原形質は淡青色から紫色、淡紅色に染まり輪廓が明かで空胞化の傾向がある。核は中心部にあつて原形質に比較して大きく、圓形で小顆粒があり、核小體は著明である。Hortega 染色では茶褐色より濃褐色に染まり核は黑色顆粒狀に染る。

本細胞は頸管炎、妊娠時、卵胞期に著明に認められる。

(2) 子宮内膜細胞

頸管上皮細胞より小さく、原形質は少く、淡青紫色に染まり空胞化の傾向がある。核は圓形濃染性であり、核小體は一般に明かでない。又分泌期に於ては細胞は大きさを増し頸管内膜細胞に似て來て區別の困難な事がある。Hortega 染色では濃褐色に染まり、核は黑色顆粒狀を呈

する。

第2節 腔塗抹標本に現われる異常細胞

前節に述べた正常細胞以外に、流産時に脱落膜細胞、破水後に羊膜上皮、胎児皮膚表皮細胞、毳毛、炎症性細胞として、多数の白血球、リンパ球、赤血球、組織球等が出現するが、問題となるのは腫瘍細胞である。

此の腔塗抹標本中に出現する異型細胞が腫瘍細胞であるか、又は悪性腫瘍の存在に依る二次的の組織反應の現われであるか、否か、を決定する爲に、余は手術直後摘出された標本の癌病竈部及び之等の剖面から、綿球或は直接載物硝子を以て塗抹し、標本を作成して鏡檢した結果腔塗抹標本中に出現する細胞と、腫瘍そのものの中に見られる細胞と同形態の細胞である事を認めた。

第1項 塗抹標本に現われる悪性腫瘍細胞の一般的特徴

腫瘍の原發部位、進行度、發育型に依つて塗抹標本に出現する腫瘍細胞は夫々異なるが一般的特徴は次の如くである。

(A) 核の變化

(1) 大 小

一般に著しく大きく、原形質全體を滿していて原形質の見られぬものから、核の周圍に細胞質を残しているもの等、種々の程度のものがある。

(2) 形 態

圓形、橢圓形、多角形、蝌蚪形、分葉形等種々の形態を呈して一様でない。

(3) 數

1個の事が多いが、時に多核の巨態細胞が見られる。

(4) 核小體

1個の事が多く、大さ、形態は不規則であるが一般に大きい。

(5) 核の細胞質に對する比率

第1項、(1)に於て述べた如く、原形質に比較して大きい。

(6) 染色性

一般に過染色質性であつて、網狀構造を示す

もの、或は染色質塊として染められる場合もある。

(7) 核分裂

認め難い(有絲分裂)

(8) 核膜肥厚

Gates¹⁵⁾等は悪性細胞の一特徴としているが頸管炎等に現われる深層細胞に於ても核膜肥厚を認める事があるので、一般的特徴とは認め難い。

(B) 細胞の變化

(1) 大 小

大小不同が著しく、多数の癌細胞が集團をなして現われる場合には容易に認められる。又異型的巨大細胞の出現を見る事は稀ではない。然し炎症の存在、妊娠、照射療法實施中の腔塗抹標本にも巨態細胞が出現する事がある故、細胞の大きさの變化は補助診斷に過ぎない。

(2) 形 態

著しく不規則で、種々の形のものが見られる圓形、橢圓形、腸詰形、蝌蚪形、纖維形等種々であり、一般に奇怪な形を示すのは大きい細胞に多く、圓形、橢圓形、纖維狀の細胞は比較的小さい。

(3) 細胞質の變化

細胞の大きさに比して原形質は小さく、鹽基好性のものと、酸好性のものとがあつて一定しないが、鹽基好性のものが多い、之は腔内容のPH及び細胞の新舊、採取より固定迄の時間的關係等に依るものである。

原形質の染色性にも不同があり、濃染するもの、淡染するもの、或は一部分のみが濃染するものがある。又大小種々の空胞を形成したり、顆粒を持つものなどがある。

第2項 塗抹標本に依る判定法

Papanicolaou³⁾⁵⁾¹⁵⁾¹⁶⁾は塗抹標本に依る判定を次の5項に區別した。

(1) 異型或は異常細胞のないもの。

(2) 異型細胞は存在するが、異常の特徴を缺くもの。

(3) 細胞は異常の特徴を持つているが、悪性とは決定し難いもの。

(4) 悪性であると可成り決定し得る細胞、及び細胞群が存在する場合

(5) 悪性と決定し得る細胞、及び細胞群が存在する場合

余は此の判定法に従つて、(1)(2)を(一)(3)を(±)(4)(5)を(+)と記載する。

第4章 実験例

記述の煩雑を避ける爲に表示した。

A表, I. II. III. は子宮頸癌手術實施例の外來臨牀所見である。

B表, I. II. III. は子宮頸癌手術實施例の血液所見並びに剔出標本所見である。

C表, I. II. III. は子宮頸癌手術實施例の手術前塗抹標本所見である。

D表, は子宮體癌手術實施例の臨牀所見並びに剔出標本所見である。體癌に於ては頸管内容塗抹標本に依り、何れも診斷し得たものである。

E表, I. II. III. は照射療法を實施した子宮癌例の外來臨牀所見である。

F表, I. II. III. は照射療法を實施した子宮癌例の照射前腔塗抹標本所見である。

G表, は照射療法を實施した腔癌例である。

H表, I. II. は臨牀所見を参考せずに、即ち盲目検査に依つて癌陽性と診斷された例である。

F表, G表, に示したレントゲン照射方法は次の様な條件で實施した。

裝置, 松田 KXC-15 型

管球電壓 160kV 管球電流 3mA 濾過板 0.5 耗 Cu 半價層 0.75Cu 照射門 4 門, 照射野の大きさ, 8×10 ㎢, 焦點皮膚間距離 30 ㎢, 毎分 14r.

ラジウムは50 疋 (27.3 元素疋) を用い、腔内頸管内に少量分割照射した。

腔塗抹標本中 V.S は Vaginal Smear. C.S は Cervical Smear の略である。

腫瘍細胞分化程度, Ⅲは成熟型, ±は半熟型 ±は未熟型を示す。

各細胞の一, ±, +, Ⅲ, は標本全般の多少を示す。

A 表 I

症例番号	姓 名	年 齡	經 産 回 数	初 年 月 日 診 日	手 年 月 日 徴 候 の 期 間	初 診 後 の 日 間	自 覺 症 状	子 宮 腔 部				外 來 臨 牀			所 見			臨 牀 診 斷					
								大 小	硬 度	外 形	活 度 反 應	肥 大 度	硬 度	管	子 宮	體 移 動 性	pH	分 泌 物 性 狀	癌 發 育 型	進 行 度	備 考		
1		41	7	1948 4.10	1948 4.20	1948 1月	1948 3.7	出 血	鶏 卵	硬	乳頭狀	-	+	硬	正常	正常	正常	+	+	血性中等量	外	I	
2		38.1	3	1948 4.12	1948 4.23	1949 1月	1949 3.28	帶 下	稍 大	稍硬	輕度凹凸	-	-	正常	正常	正常	±	±	膿精液性	外	I		
3		49	5	1948 4.17	1948 4.26	1947 6月	1947 6.	輕度下腹痛 帶下出血	鶏 卵	硬	花菜狀	-	+	硬	稍小	正常	正常	+	+	血性中等量	外	I	
4		45.1	3	1948 5.5	1948 5.10	1948 6月	1948 3.9	帶下出血	正 常	正常	輕度凹凸	-	-	正常	正常	正常	+	+	白色稍血性	内外	II	頸部初期	
5		55.2	3	1948 5.20	1948 5.27	1945 3月	1945 3月	出 血	稍 大	稍硬	顆粒狀 凹凸	-	-	硬	小	正常	正常	+	+	血性少量	内外	II	頸部筋腫 疑病
6		46	0	1948 5.11	1948 6.3	1948 1月	1948 4.28	自身腔洗滌時 腫瘍を發見	大	稍硬	顆粒狀	+	+	硬	超驚卵	硬	硬	+	+	白色淡血性	外	II	頸管初期
7		35.1	1	1948 7.1	1948 7.8	1948 2週	1948 6.21	下腹部緊張感 出血	稍 大	硬	凹 凸	-	-	硬	稍大	硬	硬	+	+	淡膿血性	外	II	
8		46.2	0	1948 7.16	1948 7.22	1948 1年	1948 6.27	帶下出血	鶏 卵	硬	花菜狀	-	-	硬	稍小	正常	正常	-	-	腐敗性血性	外	II	

A 表 II

10	43	1	1947 7.22	1948 1.24	1947 6.28	1週	1947 6.28	出血	前	唇大	稍硬	正 常	+	稍硬	稍小	正常	+	暗赤色 凝血之混才	內	I	
11	53.6	8	1948 12.21	1948 12.27	1947 7月5.	7月	1947 5.	出血	大	大	硬	凸	+	硬	小	正常	-	血性中等量	外	II	
13	35	6	1949 1.3	1949 1.17	1949 1月	1月	1949 1.7	出血	大	大	硬	凸	-	正常	稍小	稍軟	+	暗赤色	外	I	
14	47.5	3	1948 11.21	1948 11.29	1948 10月	10月	1948 11.1	帶下出血 左下腹痛	稍	大	硬	乳嘴狀	±	稍硬	甚卵	正常	-	血 性	內	I	
18	49.7	2	1948 11.16	1948 12.6	1948 1月10.25	1月	1948 10.25	帶 下	小	小	硬	花菜狀	-	正常	稍小	正常	+	淡 膿 性	外	I	
21	41.1	6	1949 1.24	1949 1.28	1949 2月	2月	1949 1.10	帶下出血	大	大	稍硬	顆粒狀 凹 凸	-	稍硬	正常	正常	+	7.2 粘液血性	外	I	
22	40.2	0	1949 1.20	1949 2.4	1949 2年	2年	1949 12.	出 血	稍	小	硬	前唇潰瘍	+	正常	正常	正常	+	7.0 血性少量	外	I	
26	51.1	6	1949 2.14	1949 2.28	1949 3週	3週	1949 2.2	出 血	稍	小	稍硬	後唇稍大	-	正常	小	正常	+	6.8 血性極少量	內	I	
31	46.4	6	1949 3.1	1949 3.14	1949 1.5	1月	1949 2.10	帶 下	正 常	大	稍硬	殆 正 後 唇 小潰瘍	±	稍硬	稍小	正常	+	7.0 血性極少量			頸管初期
33	48.0	1	1948 9.20	1948 9.28	1948 4月	4月	1948 5.	出 血	稍	大	稍硬	後 唇 前唇稍大	-	正常	小	正常	+	淡 血 性	外	I	
34	43.2	6	1948 6.18	1948 6.24	1948 1月	1月	1948 5.7	出 血	大	大	硬	後 唇 前唇稍大	-	正常	正常	正常	+	褐色惡臭	外	I	
35	30.1	0	1948 9.17	1948 10.18	1948 2月	2月	1948 8.23	出 血	稍	小	正常	後 唇 稍凹凸	-	正常	稍小	稍硬	+	淡血性少量			頸管疑診
36	41.5	4	1949 3.10	1949 3.18	1949 1月	1月	1949 2.23	出血腰痛	稍	大	硬	不規則	-	硬	小	正常	+	7.4 血 性	內	II	
37	39.3	4	1949 3.15	1949 4.1	1949 2月	2月	1949 3.8	出 血	大	大	硬	顆粒狀	-	正常	正常	正常	+	6.2 血性中等量	外	I	
40	40	4	1949 4.2	1949 4.6	1949 2週	2週	1949 3.	出 血	稍	大	硬	凹 凸	-	硬	正常	正常	+	7.2 血 性	外	I	
52	46.6	2	1949 6.4	1949 6.10	1949 5月	5月	1949 10.	出 血	大	大	硬	花菜狀	-	硬	正常	正常	+	7.0 血 性	外	I	
54	45.0	6	1948 2.9	1948 3.23	1948 1週	1週	1948 1.17	出 血	大	大	稍硬	凹 凸	-	稍硬	正常	正常	+	暗 赤 性	內	I	
57	25.8	3	1949 7.12	1949 7.20	1949 4月	4月	1949 7.4	出 血	正 常	大	正常	外子宮口 右側糜爛	±	正常	正常	稍軟	+	6.2 血性中等量			頸部糜爛
60	41.4	3	1949 7.11	1949 7.15	1949 4月	4月	1949 7.4	出 血	大	大	稍硬	顆粒狀 凹 凸	-	稍硬	稍小	正常	+	6.8 淡 血 性	外	I	
62	48.1	0	1948 7.21	1948 7.29	1948 3月	3月	1948 8.3	帶下腰痛出血	大	大	稍硬	凹 凸	上 $\frac{1}{3}$ 下 $\frac{1}{5}$ ±	正常			+	6.4 血 性	外	I	斷端癌
67	41.6	3	1949 8.27	1949 9.2	1949 4月	4月	1949 8.3	出 血	大	大	稍硬	顆粒狀	±	硬	正常	正常	+	7.2 血 性	內 外	II	
70	45.1	2	1949 9.29	1949 10.12	1949 3月	3月	1949 9.1	出 血	殆正	大	硬	前 唇 稍凹凸	-	稍硬	稍小	正常	+	7.0 膿性淡血性	內	II	
80	47.9	3	1949 10.25	1949 11.7	1949 1年	1年	1949 10.18	帶下, 出血 下腹痛	小	大	硬	正 常	+	硬	稍小	正常	+	6.0 白色淡血性			頸管初期
86	48	10	1948 10.9	1948 10.15	1948 2月	2月	1948 7.	出 血	正 常	大	硬	凹 凸	-	硬	正常	正常	-	腐敗性血性	內	II	

87	35	4	1948 10.5	1948 10.26	1948 5月	1948 9.15	出血	血	稍大	稍硬	花菜狀	—	—	正常	正常	正常	+	6.2	白色少量	性外	I	陰部初期
89	42	0	1949 2.24	1949 3.11	1949 2週	1949 1.28	出血	血	稍小	硬	後唇短小	±	—	正常	稍小	稍硬	+	5.8	淡膿性	内外	II	妊娠3月
90	39	9	1949 4.23	1949 5.4	1949 6月	1949 2.25	帶下	下血	卵	硬	顆粒狀凸	±	±	正常	正常	稍軟	—	7.0	血性	内	II	妊娠3月
93	52.3	4	1949 11.22	1949 11.28	1949 3月	1949 3.10	帶下	下血	稍大	硬	顆粒狀	—	—	硬	稍小	正常	±	6.4	淡血性	内	II	頸管疑診
96	61.6	6	1949 11.29	1949 12.12	1949 2週	1949 1.10	出血	血	稍小	稍硬	右小潰瘍	—	—	稍硬	小	正常	+	8.0	血性中等量	内	II	頸管疑診
97	51.6	9	1949 12.5	1949 12.9	1949 1月	1949 1.12	出血	血	稍小	正常	正	—	—	硬	小	軟	±	7.2	淡血性	内	III	頸管疑診
100	40.4	0	1949 12.16	1949 12.23	1949 2月	1949 2.11	帶下	下血	大	稍硬	噴火口狀凸	±	±	硬	正常	正常	—	7.6	膿血性	内外	II	頸管疑診
135	57.1	7	1950 1.4	1950 1.11	1950 2月	1950 2.11	帶下	下血	大	硬	顆粒狀凸	—	—	正常	稍小	正常	±	7.0	血性	外	II	頸管疑診
136	42	0	1950 1.23	1950 1.30	1950 1月	1950 1.10	出血	血	大	硬	顆粒狀凸	—	—	稍硬	小	稍軟	+	7.2	血性	外	I	頸管疑診
139	41	5	1950 1.22	1950 2.3	1950 3月	1950 3.10	出血	血	大	稍硬	凹凸	±	±	稍硬	小	正常	+	7.8	血性	内外	III	頸管疑診
153	47.8	3	1950 4.13	1950 4.18	1950 1月	1950 1.10	出血	血	大	硬	凹凸	—	—	硬	稍小	正常	+	6.4	膿淡血性	内	II	頸管疑診
156	51.8	1	1950 3.28	1950 4.20	1950 5月	1950 5.10	出血	血	大	稍硬	稍凹凸	±	±	殆正	小	正常	+	6.0	血性少量	外	I	陰部疑診
157	40.3	8	1950 4.28	1950 5.15	1950 1年	1950 4.25	月經不順	血	正	稍硬	稍凹凸	±	±	正常	小	稍軟	+	6.8	血性	外	II	陰部疑診
165	34.8	4	1950 5.25	1950 6.12	1950 1月	1950 5.26	出血	血	稍大	稍硬	後唇崩壞	—	—	正常	正常	正常	+	7.2	血性	外	II	陰部疑診
166	40.4	5	1950 5.29	1950 6.9	1950 2月	1950 5.4	出血	血	大	硬	顆粒狀	—	—	稍硬	稍小	正常	—	6.6	暗赤色	外	II	陰部疑診
175	29.8	0	1950 7.4	1950 7.18	1950 1月	1950 6.5	出血	血	小	正常	凹凸	±	±	正常	稍小	稍硬	—	6.4	血性少量	内	II	陰部疑診
181	36.8	0	1950 8.8	1950 8.18	1950 7月	1950 7.11	出血	血	稍大	殆正	後唇隆起	—	—	正常	正常	稍硬	—	6.4	血性少量	内	II	陰部疑診

B 表 1

症 例 番 號	血 液			赤 沈		血 壓		剔 出 標 本 所 見						手 術 後 診 斷						
	血 色 素 量	赤 血 球 數	白 血 球 數	一 時 間 值	二 時 間 值	最 高	最 低	子 宮 腔 部			子 宮 體		癌 腫 界 境	硬 度 破 壞	骨 質 結 締	骨 質 移 行	進 行 度		備 考	
								大 小	硬 度	外 形	肥 大 度	硬 度					大 小	硬 度		內 膜
1	61	304	5200	20	53	130	70	乳頭狀	硬	±	殆正	正常	多少粗	骨質破壞	骨質結締	骨質移行	Ⅲ	外	兩側下腹リンパ腺轉移	
2	65	326	5900	6	18	118	70	殆正	稍硬	—	正常	稍小	約3耗	骨質破壞	骨質結締	骨質移行	Ⅲ	外	陰部初期下腹リンパ腺轉移	
3	45	302	5600	14	39	110	60	花菜狀	硬	±	硬	小	正常萎縮	骨質破壞	骨質結締	骨質移行	Ⅳ	内外	下腹リンパ腺轉移	

13 表 II

[illegible]

B 表

87	55	305	6400	21	50	120	65	殆正常	硬	表面崩壊	±	硬	稍大	稍軟	薄充血性	前唇の左1/2頸管前壁内子宮口に達す	+	—	内	Ⅰ	陰部初期 筋腫
89	70	345	6000	10	26	122	80	正常	稍硬	表面凹凸	±	殆正	稍小	彈硬	約1.5耗	前唇の小潰瘍	±	—	内	Ⅱ	妊娠3月
90	59	461	8700	55	100	105	40	鶏卵	硬	噴火口狀	+	硬	對卵	軟	肥大	頸管右側殆全壁に達す	±	+	内	Ⅱ	間質性頸部筋腫
93	68	464	8200	70	90	140	70	稍小	硬	噴火口狀	+	硬	殆正	軟	萎縮	内子宮口下約2耗に達す	±	左+	内	Ⅰ	頸管疑診
96	95	473	5900	7	17	140	100	稍小	稍硬	右連合部凹凸潰瘍	+	稍硬	稍小	正常	萎縮	頸管後壁に小指頭大の癌病竈あり	+	—	内	Ⅰ	
97	41	207	9600	35	66	132	68	稍小	正常	殆正頸管	+	殆正	稍小	正常	正常	外子宮口の小陰嚢の他に肉眼的に變化なし	+	—	内	Ⅱ	頸管疑診
100	71	379	10200	51	65	110	58	大	稍硬	噴火口狀	+	硬	正常	稍軟	薄	頸管全壁内子宮口に達す、拇指頭大の空洞	±	—	内	Ⅱ	陰部筋腫
135	68	342	13000	70	77	150	88	鶏卵	硬	乳嘴狀	—	正常	稍小	正常	萎縮薄	陰部に乳嘴狀腫瘍頸管正常前壁小指頭大	+	—	外	Ⅱ	陰癌
136	65	335	4600	28	58	128	66	大	硬	凹凸	±	殆正	稍小	正常	約2耗	陰部、頸管下部小部分	+	+	外	Ⅱ	
139	68	314	4100	78	105	110	66	拇指頭稍硬	硬	乳嘴狀	+	硬	稍小	稍軟	約2耗	頸管下部1/4	+	—	内	Ⅰ	
153	54	234	7200	20	45	110	80	正常	殆正	小潰瘍	±	硬	正常	正常	正常	頸管全壁内子宮口に達す	+	—	内	Ⅱ	
156	75	370	6200	26	68	146	94	殆正	稍硬	前後唇	+	硬	小	軟	萎縮薄	頸管全壁を侵す	+	左+	内	Ⅲ	右下腹リンパ腺轉移
157	64	332	8000	17	38	112	60	殆正	稍硬	小潰瘍	—	硬	小	軟	約1耗	他に肉眼的に異常なし	+	—	内	Ⅲ	陰部疑診
165	71	471	7300	17	49	110	72	後唇稍大	硬	平滑	±	稍硬	稍小	正常	約1耗	頸管後壁下1/3	+	—	外	Ⅰ	
166	70	403	5300	32	85	110	60	前唇大	硬	噴火口狀	±	稍硬	稍小	正常	約1耗	前壁、頸管前壁下部僅少部分	+	+	外	Ⅱ	
175	78	388	7600	18	46	104	60	正常	稍硬	前後唇	—	正常	稍大	稍硬	肥大	前唇小陰嚢	+	—	—	—	陰部初期筋腫
181	79	385	6400	11	32	126	64	正常	正常	多少隆起	—	正常	稍大	稍硬	肥大	後唇に直徑約8耗の圓形赤色隆起	+	—	—	—	陰部初期筋腫

O 表

症例番号	組織診断	主要染色法	内膜細胞	深層細胞	表層細胞下部	表層細胞上部	細胞核濃縮	顆粒細胞	角化前細胞	角化細胞	腫分化細胞度	赤血球	第1次診	第2次診	備考
1	局上癌成熟	V.S.	—	卅	+	±	—	—	—	—	+	卅	+	+	リンパ腺前面よりの塗抹標本に於ても癌細胞を認めた
2	局上癌半熟	V.S.	—	+	+	±	+	—	—	—	+	卅	+	+	リンパ腺前面よりの塗抹標本に於ても癌細胞を認めた
3	局上癌成熟	V.S.	—	+	+	±	+	—	—	—	+	卅	+	+	リンパ腺前面よりの塗抹標本に於ても癌細胞を認めた
4	局上癌半熟	V.S.	—	+	+	±	+	—	—	—	+	卅	+	+	リンパ腺前面よりの塗抹標本に於ても癌細胞を認めた
5	局上癌半熟	V.S.	—	+	+	±	+	—	—	—	+	卅	+	+	リンパ腺前面よりの塗抹標本に於ても癌細胞を認めた
6	局上癌成熟	V.S.	—	+	+	±	+	—	—	—	+	卅	+	+	リンパ腺前面よりの塗抹標本に於ても癌細胞を認めた
7	局上癌半熟	V.S.	—	+	+	±	+	—	—	—	+	卅	+	+	リンパ腺前面よりの塗抹標本に於ても癌細胞を認めた

[illegible]

表	0
---	---

135	局上癌 半熟	V.S. O.S.	EA 36	-	+	+	+	+	+	+	+	+
136	局上癌 成熟	V.S. C.S.	EA 36	-	+	+	±	-	+	+	+	+
139	局上癌 半熟	V.S. C.S.	EA 36	-	+	+	±	-	-	+	+	+
153	局上癌 半熟	V.S. C.S.	EA 36	-	+	+	+	±	+	+	+	+
156	局上癌 半熟	V.S. C.S.	EA 36	-	+	+	±	±	+	+	±	+
157	局上癌 半熟	V.S. C.S.	EA 36	-	+	+	±	-	+	+	+	+
165	局上癌 未半熟	V.S. O.S.	EA 36	-	+	+	+	-	±	+	+	+
166	局上癌 半熟	V.S. C.S.	EA 36	-	+	+	-	-	+	+	+	+
175	局上癌 半熟	V.S. C.S.	EA 36	-	+	+	+	-	±	+	+	+
181	局上癌 半熟	V.S. C.S.	EA 36	-	+	+	+	+	±	+	+	+

D
表

症例 番号	姓 名	年 齡	經 産 回 數	初 年 月 日	手 年 月 日	初 發 症 迄 の 期 間	自 覺 症 狀	外 來 臨 牀 所 見								臨 牀 診 斷		
								子 宮 腔 部		頸 管		子 宮 體		分 泌 物				
								大 小	硬 度	外 形	活 度 反 應	肥 大 度	硬 度				大 小	硬 度
12	[Redacted]	54.1	1	1949 1.8	1949 1.17	1 月	1946 帯下, 出血, 腰痛	正常	後長 殆消失	±	±	稍硬	大	硬	+	暗赤色	子宮肉腫(疑診)	
39		33.	0	1948 2.10	1948 2.26	2 月	1947 出 血	軟	正常	+	+	殆正	殆正	硬	-	暗赤色	子宮體部筋腫(右附屬器炎)	
85		54.	2	1948 7.13	1948 10.4	1年4月	1945 帯下出血	稍硬	後唇糜 爛	-	±	稍硬	正常	稍硬	-	粘膿性	頸管癌肉向發育型	
88		27.	1	1948 10.12	1948 11.6	5 月	不明 出 血	正常	正常	±	±	殆正	殆大	殆正	+	粘血性	體癌(疑診)	
164		54.2	6	1950 5.25	1950 5.31	2 年	1949 出 血	稍硬	正常	+	-	-	殆正	夥卵	硬	+	淡暗赤色	體癌

報

症 例 番 号	血 液		赤 沈	血 壓		別 出 標 本 所 見							手術後診断						
	血 色 素 量%	單 位 球 數		一 時 間 値	二 時 間 値	子宮部	頸 管	子 宮 體		癌 腫 境 界	癌度 破 壞	癌度 月經 滯 滯		轉 移 淋 巴 腺					
								大 小	硬 度						外 形	肥 大 度	硬 度	内 膜	
12	67	364	51	74	稍小	正常	前唇	稍大	—	正常	稍軟	脆	體部下1/3前壁より後壁へ及ぶ	+	—	—	體癌、 卵巣囊腫		
39	85	422	30	55	稍小	正常	小陰嚢あり	—	—	殆正	稍大	稍硬	脆	前壁小部分	±	—	—	體癌子宮體部筋腫	
85	82	436	74	97	110	70	稍小	稍硬後唇1/3陰嚢	—	殆正	驚卵	硬	脆	體部上2/3	+	—	—	體癌	
88	28	290	37	86	98	60	正常	正常	殆 正	殆正	大	殆正	肥大0・8—1腫	肉眼的に明かならず	—	—	—	體癌(疑診)	
164	62	323	85	120	145	100	正常	正常	正 常	—	殆正	驚卵	硬	脆	體部全壁	+	—	—	體癌下腹リンパ腺轉移

I 表

症例番號	姓 名	年 齡	經 産 回 數	初 診 年 月	初 發 候 期	最 終 月 經	自 覺 症 狀	外 來 臨 牀 所 見						臨 牀 診 斷								
								子 宮 外 形	子宮肥大反應度	頸 管 硬 度	子 宮 硬 度	移動性	骨 盆 壓 迫 感	病 位	病 發 型	病 進 行 度						
																	大 小	大 小	PH	性 質		
9		27.1	0	1949 1.13	1 月	1948 12.	下腹痛, 出血	大	硬	凹	凸	—	硬	稍大	正常	—	7.8	血	性	陰 部	外	IV
10		43.	1	1947 7.22	1 週	1947 6.28	出 血	前唇稍大	稍硬	正	常	±	稍硬	稍小	正常	+	—	暗 赤	性	陰 頸 管	內	I
15		43.3	0	1948 12.15	10 月	1948 6.	帶 下	大	硬	凹	凸	—	硬	正常	稍硬	—	—	膿	性	陰 頸 管	內	■
16		52.5	5	1948 9.20	3 年	1941	下腹痛, 帶下	殆 正	稍硬	後唇短	短	—	硬	小	正常	—	—	腐敗性血	性	頸 管	內	■
17		67.8	7	1948 9.21	1 年	1928	出血, 右下腹痛	小	稍硬	殆	正	—	硬	小	稍硬	—	—	膿	性	頸 管	內	IV
19		42.7	4	1948 11.6	5 月	不明	出 血	正 常	硬	稍顆粒狀	大	±	硬	稍小	正常	+	—	血	性	陰 頸 管	內	■
25		71.3	8	1949 2.12	1 月	1927	出 血	稍 大	稍硬	前唇肥大	大	—	硬	小	正常	+	—	血	性	頸 管	內	I
27		59.4	7	1948 6.2	1年2月	1939	下腹痛, 出血	稍 小	硬	凹	凸	±	硬	小	正常	+	—	血	性	頸 管	內	■
28		56.3	2	1949 2.18	2 月	1941	出 血	小	硬	殆	正	—	硬	正常	稍硬	—	—	膿 淡 血	性	頸 管	內	■
41		44.1	2	1949 4.2	1 年	1949 3.28	腰 痛	鷄 卵	硬	殆	正	—	硬	硬	正常	—	—	膿	性	陰 頸 管	內	■
42		41.3	7	1948 8.17	6 月	1946 6.	出 血	大	硬	凹	凸	—	硬	正常	正常	—	—	血	性	陰 頸 管	內	■

E 表 II

	1949	1930	帶	下	小	稍軟	前唇小	一	一	正常	小	軟	+	一	6.2	淡血性少量	腔部	外	I
45	4.19	1930	帶	下	稍大	稍軟	噴火口狀	一	一	硬	硬	稍軟	+	一	6.6	腐敗性血性	腔頸管	內	II
46	4.21	1933	帶下, 腰痛	痛	大	硬	多少凹凸	+	+	硬	硬	硬	一	一	6.4	腐敗性血性	頸及體	內	II
49	5.14	1942	出血	痛	正	硬	四凸	+	+	硬	硬	硬	一	一	6.8	膿血性	腔頸管	內	IV
51	6.11	1945	帶	下	正	稍硬	不規則	一	一	硬	硬	硬	+	+	7.0	膿淡血性	腔頸管	內	IV
55	6.21	不明	帶下, 下腹膨滿感	血	小	正	前唇肥大四凸	+	+	硬	硬	硬	+	+	7.2	血性中等量	腔頸管體	內外	II
63	7.21	1938	出血	血	大	硬	後唇崩塌	一	一	硬	硬	硬	+	+	7.2	血性	腔部	內	II
64	7.18	1934	出血	痛	稍大	硬	崩塌	+	+	硬	硬	硬	+	+	7.2	血性	腔頸管	內	II
65	7.30	1937	出血	血	稍大	硬	四凸	+	+	硬	硬	硬	+	+	7.4	血性少量	腔部	內	II
66	7.29	1947	出血	血	稍小	硬	平	+	+	硬	硬	硬	+	+	6.8	淡血性	腔頸管	內	II
69	9.5	1944	出血	血	稍小	正	後唇崩塌	+	+	硬	硬	硬	+	+	7.0	血性	腔頸管	內	II
82	9.21	1938	帶下, 出血	血	大	硬	殆	一	一	硬	硬	硬	+	+	6.4	膿淡血性	腔頸管	內外	II
92	1947	1930	帶	下	小	硬	殆	一	一	硬	硬	硬	+	+	7.0	灰白黃色	頸管	內	II
95	11.8	1949	腰痛	痛	稍小	殆正	稍萎縮	一	一	硬	硬	硬	+	+	6.4	血性	頸管	內	II
98	12.6	1947	出血	血	小	硬	殆	一	一	硬	硬	硬	+	+	7.0	污穢惡臭	腔頸管	內外	II
99	12.7	1949	出血	血	鵝卵	硬	潰瘍	+	+	硬	硬	硬	+	+	6.8	血性	腔頸管	內外	II
103	3.17	1950	出血	血	大	硬	潰瘍	一	一	硬	硬	硬	+	+	7.0	血性	腔頸管	內	II
105	4.20	1948	出血	血	稍大	硬	不規則	一	一	稍硬	正	正	+	+	6.8	血性	腔頸管	內外	II
106	2.16	1945	出血	血	稍大	硬	四凸	一	一	硬	硬	硬	+	+	7.0	血性少量	腔頸管	內	IV
107	1.6	1947	出血	血	殆正	正	潰瘍	一	一	硬	硬	硬	+	+	6.8	膿血性	頸管	內	II
108	1.17	不明	帶	下	大	硬	四凸	一	一	硬	硬	硬	+	+	7.0	血性	腔頸管	內外	II
109	1948	1948	出血	血	大	硬	四凸	一	一	硬	硬	硬	+	+	6.8	血性	腔頸管	內外	II
110	4.6	1942	出血	血	正	硬	頸粒狀	一	一	硬	硬	硬	+	+	7.0	血性	腔頸管	內	II
112	5.27	1945	下腹痛, 出血	血	大	硬	四凸	一	一	硬	硬	硬	+	+	7.0	腐敗血性	腔頸管	內外	II
113	6.9	1946	帶下, 出血	血	大	硬	四凸	一	一	硬	硬	硬	+	+	7.0	血性	腔頸管	內外	II

一、政

1115	38.9	0	1948 6.29	不明 1年6月	帶下, 腰痛	大	硬	凹	凸	—	+	硬	正常	—	+	頸頸管	IV
1116	55.0	6	1948 10.2	1947 8.1月	腹痛, 出血	始正	硬	凹	凸	—	+	硬	小	—	+	頸頸管	內
1117	47.3	7	1948 9.21	1948 3月	腹痛, 出血	稍小	硬	始	正	+	+	硬	始正	—	+	頸管	內
125	59.5	8	1948 7.7	1939 1年3月	帶下, 左下腹痛	小	始正	始	正	—	+	硬	稍大	—	+	頸管	內
160	49.11	5	1950 5.11	1949 6月	腰痛	始大	硬	凹	凸	—	+	硬	始正	—	+	頸頸管	內
167	48.10	6	1950 5.22	1950 7月	帶下, 出血	大	硬	花菜狀	凹	—	+	硬	正	—	+	頸部	內
182	62	2	1950 6.12	1935 1年6月	出血, 腰痛	大	硬	凹	凸	—	+	硬	大	—	+	頸頸管體內外	內

I 表

[illegible]

G 表

症 例 番 號	姓 名	年 齡	經 産 回 數	初 診 年 月	初 診 日 期	初 診 迄 の 期 間	最 終 月 經	自 覺 症 狀	外 來 臨 牀 所 見												癌 位 發 生 部	臨 牀 診 斷	組 織 診 斷
									子 宮 腔 部			頸 管		子 宮 體			骨 盤 浸 潤	分 泌 物					
									大 小	硬 度	外 形	沃 度 反 應	肥 大 度	硬 度	大 小	硬 度		移 動 性	P H	性 狀			
47		29.10	1	1949 4.23	1月	不明	帶 下	稍小	殆正	前唇 小潰瘍	—	—	正常	稍小	正常	—	+	6.6	淡血性	前腔壁に小指頭大 の腫瘍	腺癌，骨盤内リン パ腺轉移	扁平上皮癌 半熟型	
58		58.5	3	1949 7.4	1週	1949 7.15	出 血	小	稍頭	小顆 粒狀	±	—	正常	小	稍軟	+	+	6.4	灰黄血色	後腔壁に拇指頭大 の腫瘍	腺 癌	扁平上皮癌 成熟型	
120		57.11	5	1948 11.8	2年	1947 6.	帶下出血	大	硬	凹 凸	—	—	稍硬	小	殆正	—	—		血 性	後腔壁に鶏卵大花 菜狀腫瘍	腺 癌	扁平上皮癌 成熟型	

症 例 番 號	血 液			赤 沈		血 壓		レ 線 照 射		ラ ジ ウ ム 照 射			照 射 前 腔 塗 抹 標 本 所 見											
	ザ ー リ 色 素 量 %	赤 血 球 位 數 萬	白 血 球 數	一 時 間 値	二 時 間 値	最 高	最 低	總 配 量	照 射 期 間	照 射 方 法	總 配 量	照 射 期 間	内 膜 細 胞	深 層 細 胞	表 層 下 部	表 層 上 部	核 濃 縮 細 胞	顆 粒 細 胞	角 化 前 細 胞	角 化 細 胞	腫 瘍 化 程 度	赤 血 球	診 斷	
47	70	539	3700	75	105	134	80			腔壁腔部	3000mg/st	11/V ~ 26/V '49	—	+	+	+	+	—	±	—	+	+	+	
58	87	370	5800	35	61	106	72	1000γ	2/Ⅳ ~ 8/Ⅳ '49	腔壁腔部	5200mg/st	11/Ⅶ ~ 31/Ⅶ '49	—	+	+	+	±	—	—	—	+	+	+	
120	70	417	9700	118	130	130	75	5500γ	3/XⅡ ~ 27/XⅡ '48	腔壁腔部	5400mg/st	16/XⅠ ~ 1/XⅡ '48	—	+	+	+	—	—	—	—	+	+	+	

H 表 I

症 例 番 號	姓 名	年 齡	經 產 回 數	主 訴	臨 牀 診 斷	試 驗 切 除 組	織 診 斷	Smear	診 斷 標 本
20		63.5	1	出 血	體 部 癌	腺癌未熟型		C.S.	+
32		60.8	9	出 血	陰 部 癌			V.S.	+
38		58.6	0	出 血	陰 癌			V.S.	+
53		41.	7	出 血	陰部頸管內外, 3 度	扁平上皮癌成熟型		V.S.	+
59		41.4	6	健康診斷	陰部癌(疑診)	糜 爛		V.S.	+
61		54.	0	出 血	陰部癌外, 1 度			V.S.	+
68		62.6	10	出 血	頸管癌內, 3 度			V.S.	+
72		59.5	7	帶 下	陰部癌外, 1 度	扁平上皮癌半熟型		V.S.	+
73		46.8	7	出 血	陰部癌疑診	扁平上皮癌未熟型		V.S.	+
76		67.3	9	出 血	頸管癌內, 2 度			V.S.	+
77		34.9	6	出 血	陰部頸管內外, 2 度	扁平上皮癌半熟型		V.S.	+
78		57.7	3	尿意頻數	頸管癌內, 3 度			V.S.	+
83		40.2	2	出 血	陰部癌初期	糜 爛		V.S.	+
84		42.6	7	出 血	體部筋腫疑診	腺癌未熟型		V.S.	+
101		63.2	2	出 血	頸管癌, 疑診			C.S.	+
104		52.6	2	出 血	陰部癌外, 1 度			C.S.	+
127		63.	6	出 血	陰部癌陰癌			V.S.	+
128		58.	4	出 血	陰部癌外, 1 度			V.S.	+
129		47.	6	出 血	斷端再發			V.S.	+
130		62.	5	出 血	陰部癌疑診	糜 爛		V.S.	+
131		43.	6	帶 下	陰部癌疑診	扁平上皮癌半熟型		V.S.	+
132		43.9	2	出 血	陰部癌外, 1 度	扁平上皮癌半熟型		V.S.	+
133		55.	3	帶 下	陰部頸管內外, 3 度			V.S.	+
134		55.	8	出 血	陰部癌外, 2 度			V.S.	+
138		34.	5	帶 下	陰部癌外, 1 度			V.S.	+
141		35.	0	腰 痛	頸管癌內, 1 度			C.S.	+
142		33.9	0	出 血	陰部癌外, 2 度			V.S.	+
143		58.	3	出 血	陰部癌外, 2 度			V.S.	+
144		37.	0	帶 下	體 癌	腺 癌		C.S.	+
145		53.	6	出 血	陰部癌外, 3 度			V.S.	+
146		49.	2	出 血	陰 部 癌			V.S.	+
147		46.	3	出 血	陰 部 癌			V.S.	+
148		47.	4	出 血	頸 管 癌			V.S.	+
149		56.	2	出 血	頸 管 癌			V.S.	+
150		44.10	4	出 血	陰 部 癌			V.S.	+
151		43.	3	出 血	陰 部 癌			V.S.	+
163		42.	6	出 血	陰 部 癌			V.S.	+
169		52.	10	出 血	陰 部 癌			V.S.	+
170		63.	9	出 血	陰 部 癌			V.S.	+
172		67.7	10	出 血	陰部癌外, 2 度	扁平上皮癌成熟型		V.S.	+
173		24.7	3	出 血	陰部癌外, 1 度			V.S.	+
174		37.	3	出 血	陰 部 癌	扁平上皮癌半, 未熟型		V.S.	+
176		44.8	4	出 血	陰部癌外, 2 度	扁平上皮癌半熟型		V.S.	+
177		46.2	6	出 血	陰部癌外, 1 度	扁平上皮癌半熟型		V.S.	+